

# 日々の祈り

2023年9月18日(月)~23日(土)

宮崎中部教会



<はじめに>

それぞれの日々の生活の中で、神さまに心を向け、御言葉を聞き、祈りをもって過ごしましょう。教会のために、兄弟姉妹のために、隣人のために、祈りを合わせましょう。

<使い方>

主日礼拝の説教では『ハイデルベルク信仰問答』(吉田隆訳/新教出版社)が用いられています。その週に示された問いと答えを毎日声に出して読んでみましょう。また、その問答の根拠となった聖書の御言葉を曜日ごとに載せていますので、御言葉を読んで深く思い巡らしつつ、祈りの時を持ちましょう。

<今週の祈りの課題>

- ・神さまの御前にあるわたしたちの日々の言葉が、神さまをたたえ、隣人を生かす言葉であるように。
- ・世界において戦争や災害によって困難の中にある人々に、必要な助けが与えられ、悲しみの中にある人々に、慰めがあるように。
- ・一週間、全国の教会のそれぞれの祈りの課題と、伝道の働きを覚えて祈りましょう。

問答を毎日声に出して読んでみましょう。

また、問答に関連するその日の聖書の御言葉を味わいましょう。

『ハイデルベルク信仰問答』(新教出版社/吉田隆訳)  
第三部 感謝について 十戒について 第37主日

第三戒 あなたの神、主の名をみだりに唱えてはならない。

問 101 しかし、神の御名によって敬虔に誓うことはよいのですか。

答 そのとおりです。

権威者が国民にそれを求める場合、

あるいは神の栄光と隣人の救いのために、

誠実と真実とを保ち促進する必要がある場合です。

なぜなら、そのような誓いは、神の言葉に基づいており

旧約と新約の聖徒たちによって

正しく用いられてきたからです。

問 102 聖人や他の被造物によって誓うことはよいのですか。

答 いいえ。

なぜなら、正当な誓いとは、ただ独り心を探る方である神に、

真実に対してはそれを証言し、

わたしが偽って誓う時には

わたしを罰してくださるようにと

呼びかけることであり、

このような栄光は、

いかなる被造物にも帰されるものではないからです。

18日(月)マタイによる福音書5章33~34節

また、あなたがたも聞いており、昔の人は、『偽りの誓いを立てるな。主に対して誓ったことは、必ず果たせ』と命じられている。しかし、わたしは言うておく。一切誓いを立ててはならない。天にかけて誓ってはならない。そこは神の玉座である。

「しかし、神の御名によって敬虔に誓うことはよいのですか。」

「そのとおりです。権威者が国民にそれを求める場合、あるいは神の栄光と隣人の救いのために、誠実と真実とを保ち促進する必要がある場合です。」

イエスさまの「一切誓いを立ててはならない」との教えは、神さまの御前に立って、常に真実で、誠実な言葉を語ることを求めているのです。

19日(火)コリントの信徒への手紙二1章23節

神を証人に立てて、命にかけて誓いますが、わたしがまだコリントに行かずにいるのは、あなたがたへの思いやりからです。

「そのような誓いは、神の言葉に基づいており、旧約と新約の聖徒たちによって正しく用いられてきたからです。」

パウロもまた、神さまを証人として誓いを立てています。それは自分の利益のためではなく、神の栄光と、隣人の救いに仕えるためでした。

20日(水)ヨハネの手紙一1章9節

自分の罪を公に言い表すなら、神は真実で正しい方ですから、罪を赦し、あらゆる不義からわたしたちを清めてくださいます。

「正当な誓いとは、ただ独り心を探る方である神に、真実に対してはそれを証言し、わたしが偽って誓う時にはわたしを罰してくださるようと呼びかけることであり…」

わたしたちの言葉は、罪と不義に満ちているかも知れません。しかし、それを神さまの御前に差し出すなら、神さまは御自分の真実によってわたしたちの破れを覆って下さり、わたしたちの罪を赦し、不義から清めて下さるのです。そのためにこそ、御子イエスさまは来てくださいました。

21日(木)コロサイの信徒への手紙3章16~17節

キリストの言葉があなたがたの内に豊かに宿るようにしなさい。知恵を尽くして互いに教え、諭し合い、詩編と賛歌と霊的な歌により、感謝して心から神をほめたたえなさい。そして、何を話すにせよ、行うにせよ、すべてを主イエスの名によって行い、イエスによって、父である神に感謝しなさい。

「神の栄光と隣人の救いのために」

わたしたちの語るべき言葉は、キリストの言葉です。神を賛美し、人を救い、生かし、愛を教える真実の言葉が、わたしたちの内に宿り、口から出ることを願います。

22日(金)申命記5章15節

あなたはかつてエジプトの国で奴隷であったが、あなたの神、主が力ある御手と御腕を伸ばしてあなたを導き出されたことを思い起こさねばならない。そのために、あなたの神、主は安息日を守るよう命じられたのである。

次の主日礼拝は「第四戒 安息日を心に留め、これを聖とせよ」についてです。申命記5:12~15はエジプトから救われたことを覚えて安息日を守るように命じられていますが、出エジプト記20:5~11では創造の御業を覚える日として安息日を守るようにと語られています。読み比べてみましょう。

23日(土)マルコによる福音書16章2~4節

そして、週の初めの日の朝ごく早く、日が出るとすぐ墓に行った。彼女たちは、「だれが墓の入り口からあの石を転がしてくれるでしょうか」と話し合っていた。ところが、目を上げて見ると、石は既にわきへ転がしてあった。石は非常に大きかったのである。

明日の主日礼拝の御言葉です。ユダヤ人は安息日を週の七日目としていますが、キリスト教会はイエスさまが復活なさった「週の初めの日」を安息日とするようになりました。この日こそ、エジプトから解放されたように、罪から解放された日であり、また創造の御業を覚える日、つまり、イエスさまの復活による新しい命の創造の日だからです。

聖句:日本聖書協会『聖書 新共同訳』